

令和6年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(水稲・大豆) 主要農作物優良種子生産管理事業	水稲・麦・大豆奨励品種の原種・原原種の供給と奨励品種決定のための品種選定試験及び有望品種の栽培法を検討する。	H10～	栽培・育種
(水稲) 植物調節剤の適用性試験	水稲の新除草剤・生育調整剤について、農薬登録のため効果と薬害を検定するとともに本県における雑草防除指針の策定に資する。	S39～	栽培・育種
(水稲) プラスチック被膜殻を排出しない水稲全量基肥栽培の確立	被覆尿素肥料はプラスチック被膜殻がほ場外流出することによる環境への影響が懸念されていることから、被覆肥料を用いない緩効性肥料による全量基肥栽培技術を検討する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(水稲) 除草剤に頼らない早期水稲用雑草防除技術の確立	水稲の有機栽培における最大の問題である雑草防除対策について、知見の少ない早期栽培でも適用可能な雑草防除技術を確立し、有機農業面積の拡大に資する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(水稲) 耕畜連携を加速する早期飼料用米栽培技術の確立	飼料高騰及び国の制度改正により飼料用米専用品種への要望が高まっていることから、早期栽培用の品種選定及び栽培法を確立する。また、地域資源循環による耕畜連携に向け、堆肥複合肥料ペレットを活用した栽培法を確率する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(水稲) 地域農業従事者の業務をスマート化し収益性を高める農業DXのための農業支援A1の研究開発	水稲の収量及び品質の安定化を図るため、ほ場に設置した温度センサーおよびAIによる草丈等の自動測定用エッジデバイスを利用し情報を解析する。	R4 ～ R6	栽培・育種 果樹
(藍) タデアイ新品種育成と新用途開発	現在栽培されているタデアイ品種は匍匐性が強く機械収穫に不向きであるため、立性で色素含有量が多い新品種を育成し、栽培効率を向上させることで藍関連産業全体に貢献する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(雑穀・ごうしゅいも) 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。	H25～	栽培・育種
(イチゴ) 収穫期間が長く、途切れず収穫できるイチゴ新品種の育成	県オリジナル品種として‘阿波ほうべに’を育成したが、大果で年内収量が多いものの、中休み期間が長く4～5月は果皮が軟化するなど現場への普及が進んでいない。そこで、連続出蓄性を有し4～5月の高温期においても果皮が硬く品質を維持できる品種を育成する。	R5 ～ R7	栽培・育種

令和6年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(サツマイモ) DNAマーカーを利用したサツマイモ立枯病抵抗性品種の育成技術の確立	立枯病等の防除に利用されるクロロピクリンの使用量を削減するため、立枯病抵抗性品種と感受性品種の交配集団を用いて、ゲノムワイド連関解析(GWAS)による立枯病抵抗性に関わる遺伝領域(QTL領域)の特定を行い、DNAマーカーを利用した抵抗性品種の育成技術を確立する。	R4 ～ R6	栽培・育種
(サツマイモ) サツマイモ新品種の育成	H22年頃から、青果用カンショの生産は「ベにはるか」等の高糖度で粘質系の品種がシェアを伸ばしている。そこで、新たな需要開拓と産地の維持・拡大を図るため、①砂地畑に適し、②高糖度で食味が優れる品種を目標として育成する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(レンコン) レンコン腐敗病の特徴解明と効果的な防除技術の確立	R4年度までに、徳島県のレンコン腐敗病の原因がフザリウムコミュニティ(F.commune)であることが特定できた。そこで、同菌による腐敗病の特徴を詳しく調べ、効果的かつ根拠のある防除対策を確立する。	R5 ～ R7	スマート農業
(ミニトマト) 果菜類における送風受粉ロボット運用マニュアルの策定	ミニトマト送風受粉ロボットを実用化するため、最適な送風方法を解明し、機械仕様を決定する。	R4 ～ R6	栽培・育種
(ミニトマト) 画像AIによるミニトマト果実収穫予測システムの開発	ミニトマトの契約栽培では数週間先等の出荷量をあらかじめ報告することが求められるが、現状は過去の出荷実績に栽培者の経験と勘を加味した予測値を報告しており、不正確である。そこで、AIによる画像認識技術と果実の熟度診断技術を組み合わせ、数週間先の出荷量を正確に予測できるシステムを開発する。	R5 ～ R7	スマート農業 果樹
(イチゴ、キュウリ) 植物育成用LEDを活用した施設果菜類の増収技術確立	日亜化学工業株式会社のLED「Hortisolis」は通常の照明用LEDよりも植物の生育に適した光を発光するため、補光に用いた場合に大幅な増収効果等が期待される。そこで、同LEDによるイチゴの増収効果、キュウリの曇雨天時の花飛び防止効果を試験する。	R5 ～ R7	スマート農業
(イチゴ) スマートポリネーター監視システムで活動把握！適材適所なポリネーター投入によるイチゴ高収益生産の実現	ミツバチを主としたポリネーターの活動低下が原因となるイチゴの受精不良果削減のため、ポリネーター活動監視システムとAIによる花粉活性評価手法の開発、品種や季節を考慮したポリネーター補完技術導入指標の作成等を行う。これらにより、受精不良果発生率10%以内を達成し、イチゴの高収益生産を実現する。	R5 ～ R9	スマート農業 栽培・育種

令和6年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(イチゴ) ドローンによるダウンウォッシュを活用したスマートイチゴ栽培管理手法	ドローンによるダウンウォッシュを活用し、群落内の植物生態情報を詳細かつ広範囲にモニタリングし、生育状況を正確に把握する。そして、モニタリングデータを元に効率的な栽培管理を実現する。また、ミツバチ等、不安定な訪花昆虫の代替技術として、ドローンによる送風受粉技術を確立し、受精不良果削減を目指す。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(サツマイモ) 省力栽培体系確立のためのサツマイモ挿苗機と高設養液育苗施設の普及	徳島県と井関農機がR4年度までに開発したサツマイモ挿苗機と高設養液育苗施設は、省力・軽労化の効果が大きい。そこで、本技術を普及させるため、生産現場で実証するとともに、経営的な導入効果を明らかにする。	R5 ～ R6	栽培・育種
(ブロッコリー) ブロッコリーの機械収穫を可能にする花蕾生育の斉一性向上技術の確立	ブロッコリーの花蕾生育は揃いにくいいため、収穫機による一斉収穫は普及していない。一方、ブロッコリー経営体は作付面積の拡大により、花蕾の選択収穫が難しくなりつつある。そこで、花蕾の肥大が揃う栽培条件を明らかにし、「1～2回の花蕾選択収穫後、一斉機械収穫」栽培体系を構築する。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(ブロッコリー) 安定した4月収穫のためのブロッコリーべたがけ管理法の確立	ブロッコリーの4月収穫を目的とした不織布の「べたがけ栽培」が普及しているが、被覆期間の調整は農家の勤に頼っており、収穫時期が安定していない。そこで、定植時期や気象条件に応じた被覆期間の判断基準を明らかにし、安定した4月収穫を実現する。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(シンビジウム) ICTを活用したシンビジウムの生産性向上技術の開発	センサを使用して、シンビジウムの病害予防や最適な灌水管理技術を確立する。さらに、屋根散水技術を用いた暑熱対策を行う。これにより、生存率の向上と年内採花本数を増加させ、生産性を向上させ、さらに、生産者間のデータ共有を図り、産地の技術レベルアップにつなげる。	R4 ～ R6	スマート農業
(タラノメ・シロウリ) 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。また、県の育成品種を保存栽培する。	H25～	スマート農業
(スタチ) 新品種「勝浦1号」による徳島スタチ産地の強化	果皮の緑色が濃く、退色が遅いスタチ新品種「勝浦1号」の特性を最大限に活用するため、簡易で省力的な貯蔵技術を確立する。また、強勢台木が「勝浦1号」の樹勢や生産性に及ぼす効果を検討する。	R4 ～ R6	果樹
(スタチ) 徳島スタチの新たな品種・生産技術開発による周年供給体制の強化	徳島スタチの新たな品種・生産技術を開発に向け、①突然変異育種による新品種の開発、②双幹形仕立てによる省力生産システムの確立、③加温ハウス栽培の省エネ温度管理技術の開発、④IoTを活用した貯蔵管理技術の確立の研究を行い、周年供給体制の強化を図る。	R6 ～ R8	果樹

令和6年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(中晩柑) カンキツ新品種「上板29号」品種登録に向けて	ポストハッサクとして育成中の糖度が高く良食味な中晩柑「上板29号」の現地適応性試験を実施し、県中部や県西部のカンキツ産地への導入の可能性を検討するとともに品種登録出願のための特性データを蓄積する。	R4 ～ R6	果樹
(マンゴー、フィンガーライム、アボカド) トロピカルフルーツ安定生産に向けた栽培技術の開発	温暖化の進行に対応し、果樹の生産性向上と高付加価値化を実現するため、マンゴー、フィンガーライム、アボカドの熱帯果樹について本県での栽培適性を検討するとともに、低コストかつ安定生産が可能な栽培技術の開発に取り組む。	R4 ～ R6	果樹
(ナシ) ナシ新品種によるブランド力の向上	温暖化の影響により全国のナシ産地で出荷時期が重なり、収益性が低下している。また、「幸水」、「豊水」が栽培面積の90%以上を占める本県では、8月上中旬に収穫作業が集中し課題となっている。そこで、「幸水」、「豊水」と重ならない時期に収穫できる高品質な新品種を育成し、なし生産者の収益性を向上と労力分散を図る。	R4 ～ R6	果樹
(ナシ) ドローンを用いたナシの溶液受粉法の確立	ナシ栽培において、受粉は着果安定のための必須作業であり、雇用労力を確保して実施しているが、作業が短期間に集中し、高齢化や人手不足に伴い人役の確保が困難になっている。そこで、ドローンを活用した省力的な受粉方法を開発する。	R5 ～ R7	果樹
(ナシ) 育苗を要しないジョイント仕立て法の開発	ナシのジョイント仕立てにおいて、大苗育苗することなく、市販の苗（長さ2.5m以上のもの）を用いてジョイントが可能となる栽培法を開発する。また、定植時に各種資材を混和することで、いや地の軽減を目指す。	R5 ～ R7	果樹
(果樹全般) 本県に適応する果樹品種の比較試験（系統適応性比較）	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39 ～	果樹